

AAP 今月25日から合同展

AAP アジアのモノ作りを提案

アジアに進出している（織）法人コアジア・アパレル企業・関連企業で構成するNPO（非営利組織）「AAP」は、会

員企業の技術と感度を提案する二回目の合同展「二〇一三―一四年秋冬展示会」を今月二十五日（三月一日、東京・千駄ヶ谷にある企画会社「オーダーオブメリット・オニング」(OMP)の展示会場で開く。今回は十社が参加する。合同展ではOMPが企画監修し、中国、ベトナム、バングラデシュ、ラオス、ミャンマーにある参加企業の工場で生産した製品を出展。今回は生地仕入れ先とコラボレーションして素材も開発し、カラーブロック、異なる素材の組み合わせなどを取り入れたフラウス、ジャケット&コートなどを提案する。AAPは現在、正会員三十社、協会の縫製企業が三十社、協力会員が十社、特別会員一社が参加している。合同展は、中国やASEAN(東南アジア諸国連合)に生産拠点を持つメンバーが「メイド・バイ・ジャパン」をアピールするのが狙いで、昨年九月の第一回には商社、アパレルの生産担当幹部など約三百人が来場した。

アジア・アパレルものづくりネットワーク

「オールASEAN」の製品提案

「素材提案を大事にしながら、オールASEAN(東南アジア諸国連合)の製品を打ち出す」。アジア・アパレルものづくりネットワーク(AAP)は25日（3月1日、2回目となる）13〜14年秋冬向け展示会を東京・千駄ヶ谷のオーダーオブメリット・プランニングで開く。昨年9月の初展示会は、「AAPの紹介が中心になった」（和田博AAP理事・事務局長）ことから、今回は「実際に取引先の拡大

並みの来場を予想している。

25日から東京・千駄ヶ谷で展示会

AAPはアジアに縫製拠点を持つ企業で構成するNPO（非営利組織）法人で、縫製を中心に、副資材や繊維機械など約40社が加盟している。今回の展示会には、オーダーオブメリット・プランニング、サンティイグループ・サンティイクス、昭和インターナショナル、高間、トワロンド、東京KOTIMA、養島刺繍、湯降ソーイング、ロックス、吉岡の10社が参加する。